

電気通信大学 平成21年度シラバス

|         |  |          |        |
|---------|--|----------|--------|
| 授業科目名   | 歴史学A   |          |        |
| 英文授業科目名 | History A  |          |        |
| 開講年度    | 2009年度   | 開講年次     | 1(2)年次 |
| 開講学期    | 前学期  | 開講コース・課程 | 昼間コース  |
| 授業の方法   | 講義   | 単位数      | 2      |
| 科目区分    | 総合文化科目-人文・社会科学科目-  |          |        |
| 開講学科・専攻 | 情報通信工学科<br>情報工学科<br>電子工学科<br>量子・物質工学科<br>知能機械工学科<br>システム工学科<br>人間コミュニケーション学科 |          |        |
| 担当教官名   | 倉橋 良伸  |          |        |
| 居室      | 非常勤講師  |          |        |

|                             |            |
|-----------------------------|------------|
| 公開E-Mail                    | 授業関連Webページ |
| jinbunyoumu@bunka.uec.ac.jp |            |

|  |
|--|
| <b>【主題および達成目標】</b>   |
| (a) 主題：<br>ローマ帝国の成立と地中海世界<br>(b) 達成目標：<br>王政から共和制、そして帝政という政体の変遷をその内実と共に理解していく。 |

|                         |
|-------------------------|
| <b>【前もって履修しておくべき科目】</b> |
| なし                      |

|                              |
|------------------------------|
| <b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b> |
| 特になし                         |

|   |
|---|
| <b>【教科書等】</b>   |
| 教科書は、桜井万里子・本村凌二著『ギリシアとローマ』中央公論新社。参考書は、長谷川岳男・樋脇博敏著『古代ローマを知る事典』東京堂出版。その他、講義内容の理解に役立つと思われる参考図書に適宜紹介していく。 |

## 電気通信大学 平成21年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

講義形式。教科書以外に毎回の講義内容をまとめたプリントを配付する。古代ローマ史を題材として、毎回、基本的には時系列に沿いながら、時代ごとに中心となるトピック（イタリア統一・ポエニ戦争・独裁者の登場など）を設定する。

ローマの建国から紀元前1世紀における帝国の成立までを扱う予定。その政体の変容（王政～共和政～帝政）と支配領域の拡大（一都市国家～地中海帝国）のプロセスを追いながら、それらを引き起こした内的・外的要因を検討していく。

細部に固執するのではなく、歴史のダイナミズムを観察することを主眼とする。

### 【授業時間外の学習（予習・復習等）】

なし

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

論述形式の学期試験を実施する。試験では講義内容の理解度が試される。したがって、相互の関連や時系列などを無視して、講義や教科書の内容をただ羅列する答案による単位取得は不可能である。講義に全く出席することなく単位を取得することは無理と考えて欲しい。配付されるプリントは早めに入手して、そろえておくように。

### 【オフィスアワー：授業相談】

授業時に

### 【学生へのメッセージ】

なし

【その他】

歴史学では、再検証不能な事象を扱うこととなりますので、その科学性（実証性）に関しては理系の学問を専攻する皆さんからは疑問が呈されるかもしれません。しかし、歴史学は単なる文献史料の解釈学ではなく、歴史的教訓を抽出することだけを目的とする学問というわけでもありません。当時の歴史的背景や文脈の中でその出来事の実体を理解しようとするものです。

とはいえ、難しいことを言おうとしているわけではありません。歴史学を専攻するわけではない皆さんは、歴史が現実にどのように形成されていくかということを理解してもらえれば結構です。そして、歴史学における決定的データとなる史料がどんなものかも見てもらいましょう。なお、文献史料だけがデータの全てではありませんので、それらを少しでも紹介したいと思います。

自分とは無関係の単なる遠い昔の異国の出来事ではないことを知って下さい。歴史を学ぶことにより得られるセンスは、今を生きることを知るセンスでもあります。「9・11同時多発テロ」や「イラク戦争」など、今この瞬間も次々に歴史的イベントは起きています。人はすべて時代という大きな流れの中にいつも置かれているのです。歴史的存在としての自分を捉え返す契機として欲しいと思います。